

平成 22 年 6 月 16 日現在

研究種目：若手研究(B)
研究期間：2007～2009
課題番号：19730371
研究課題名(和文) マイノリティ支援の福祉NPOへの参加主体が福祉社会形成に与える影響に関する研究
研究課題名(英文) Study of the Effects on Welfare Society by Participants in Nonprofit Organization Supporting Minorities
研究代表者 竹中 理香(TAKENAKA RIKI) 関西福祉科学大学・社会福祉学部・講師 研究者番号：70410610

研究成果の概要(和文)：在日コリアン高齢者のデイサービス活動への参加者を中間者と位置付け、参加者が福祉社会形成に与える影響について考察した。在日コリアン二・三世の参加者は、利用者(在日コリアン高齢者)との関わりを通して、自身のルーツを再確認するとともにマイノリティとしての当事者意識が高まる傾向にあった。一方で、日本人参加者は、利用者および在日コリアン二・三世の参加者との関わりを通して、日本社会におけるマジョリティとしての自らの位置を相対化し、再定位しようとする傾向がみられた。

研究成果の概要(英文)：This study examined effect on welfare society by participations as a middle position in day service for the Korean elderly in Japan. The second or third-generation of Korean elderly in Japan reconfirmed their ancestors through users. And they tend to be conscious of theirs as the minority. On the other hand, Japanese tend to position themselves on Japanese society as the majority again.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	500,000	0	500,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	100,000	30,000	130,000
年度			
年度			
総計	1,100,000	180,000	1,280,000

研究分野：社会福祉

科研費の分科・細目：分科 社会学 細目 社会福祉学

キーワード：社会福祉関係、在日コリアン、福祉社会、福祉NPO、マイノリティ

1. 研究開始当初の背景

近年、社会的排除への研究的関心の高まりにとともに、社会的排除という観点から在日

コリアン高齢者を対象として注目する研究が見られるようになってきている。例えば、社会的排除という観点から在日コリアン高齢者

の生活実態把握を目的とした調査では、社会福祉サービスからの排除状況への対応策として、在日コリアン高齢者を対象としたデイサービス活動の必要性が指摘されている。

また2000年以降、在日コリアン高齢者を対象としたデイサービス活動を行う福祉NPOが、大阪・京都を中心とする関西地域や大都市周辺部において現出するなど、実践面においても新たな展開が見られるようになってきている。

報告者のこれまでの研究の結果、こうした活動は、在日コリアン高齢者が経済的側面のみならず文化的・歴史的経験の差異による福祉サービスからの排除といった問題への対応として展開されてきたことがわかってきた。しかしながら、在日コリアン高齢者の抱える問題のより根本的な解決を目指すためには、それら福祉NPOの活動を、サービス供給による在日コリアン高齢者の生活問題の解決にとどまらず、在日コリアン高齢者／活動への参加者／社会の間での相互作用から生まれる人々の意識の変容や価値創出の可能性といった側面から福祉社会のあり方と関わらせて分析する必要があると考えるようになった。

在日コリアン高齢者に対する社会福祉領域の研究では、在日コリアン高齢者の生活実態の把握を目的とする調査報告にとどまっているものがほとんどである。また、福祉NPOによる在日コリアン高齢者を対象としたデイサービス活動を扱った研究のほとんどが、在日コリアン高齢者支援の現状と課題といった実践の紹介にとどまっており、活動が人々の意識の変容に与える影響および新たな価値の創出の可能性という視点からの研究は見られず、かつ、活動への参加者に焦点を絞った研究は申請者が知る限りない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、在日コリアン高齢者を対

象としたデイサービス活動を展開している福祉NPOの活動への参加者に注目し、それら参加者が活動を行う中で、民族的マイノリティとマジョリティとの中間者として福祉社会の形成に果たす役割について考察することを目的としている。

3. 研究の方法

(1) 仮説の設定、先行研究の検討、一次資料の収集

福祉国家および福祉社会とマイノリティとの関係を研究テーマとする最近の文献レビューを行った。それら作業を通して、キーワードの抽出とその概念整理を行い、理論的進展をはかった。

また、社会福祉学、社会学、政治学などの分野における、在日コリアンおよび在日外国人、その他エスニック・マイノリティに関する実践、社会政策、実践者と社会との関係などを主題とした最近の研究文献の収集および分析を行った。

(2) 資料の収集・備品の購入・資料の整理

在日コリアン高齢者の生活問題および在日コリアン高齢者を対象としたデイサービス活動を展開している福祉NPOに関する一次資料(チラシ・機関紙なども含む)の収集を行った。

同時に、在日コリアン高齢者の支援活動を実際に行っている福祉NPOのパンフレットや活動報告書など資料を、福祉NPOを訪問し収集した。

(3) ヒアリング調査、補足調査

主に大阪・京都・滋賀で在日コリアン高齢者を対象としたデイサービス活動を展開する福祉NPOの活動参加者へのヒアリング調査を実施した。

内容としては、活動への参加者(デイサービス活動のスタッフ)に対して、活動の動機や内容、ポジションナリティに関する意識と変

容、社会との関係などについてのヒアリング調査と分析を行った。

4. 研究成果

(1) 先行研究の検討および一次資料の分析から、活動参加者をマイノリティとしての在日コリアン高齢者とマジョリティとしての日本社会会員との中間者と位置付けた。

(2) 活動が在日コリアン高齢者の歴史的経験・文化的特性に配慮したものであることなどから、活動への参加者は在日コリアン二世・三世を望む団体が多く、人材確保が課題となっていた。一方で、一部の団体では、参加者に日本人が約半数を占めるところもあった。参加者の果たす役割を考察する上で、こうした参加者間のポジショナリティ(位置取り)の違いも考慮して考察する必要がある。

(3) 在日コリアン二世・三世の参加者は、利用者(在日コリアン高齢者)との関わりを通して、自身のルーツを再確認するとともにマイノリティとしての当事者意識が高まる傾向にあった。一方で、日本人参加者は、利用者および在日コリアン二世・三世の参加者との関わりを通して、日本社会におけるマジョリティとしての自らの位置を相対化し、再定位しようとする傾向がみられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計3件)

①野口定久, 他、へるす出版、地域福祉論、2009、278

②野口定久, 他、へるす出版、福祉行財政論、2009、156

③村井龍治, 他、ミネルヴァ書房、障害者福祉論、2010、233

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計◇件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹中 理香 (TAKENAKA RIKA)

関西福祉科学大学・社会福祉学部・講師

研究者番号：70410610

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：